

## 令和6年度 第1回ナセBA運営協議会議事録

### 1. 開催日時

令和6年8月7日(水) 午後3時～午後5時

### 2. 開催場所

ナセBA1階・体験学習室

### 3. 出席者 (9名出席)

(委員)

我妻 仁(会長)、西山 まなみ(副会長)

高野 浩男、畑田 秀将、安部 文子、佐藤 繁、細谷 信義、田中 明子、吉澤 恭子

(事務局)

曾根 伸之、渡部 洋己、設楽 由加利、青木 昭博、遠藤 朋香、齊藤 かおり、

福石 敏史、宮澤 崇士、花田 美穂

### 4. 開会

### 5. 理事長挨拶

本日は立秋だが、残暑に加え豪雨等の自然災害など学校関係者の皆様はじめ、関係各所におかれては何かと気使いや気苦労の多い夏ではないかと拝察する。さて、この度は運営協議会委員をお願いしたところ、快くご了承いただき改めてお礼を申し上げたい。また本日はご多用の中ご参集たまわり感謝申し上げます。

この運営協議会は、ナセ BA の運営に関して外部の皆様より多角的かつ多様なご意見をいただき、業務の改善や市民の皆様のニーズに適合した図書館、市民ギャラリー等の運営に繋げていく目的で、年 2 回開催している。ナセ BA は平成 28 年 7 月 1 日に市の文化複合施設としてオープンし、先月から 9 年目に入った。その間コロナ禍という前代未聞の状況下でも創意工夫して努めてきたが、コロナ禍を経た今日は社会情勢、読書活動にも変容が感じられる。そうした状況認識の下で、今後とも日々ニーズに即した改善を模索しながら最適化を図っていく必要があると考えている。図書館、ギャラリーそれぞれが、市民の皆様の芸術文化活動を支え、地域の方々に広く発信力を持てる文化施設であり続けることができるようにと考えている。令和 5 年度の図書館及び学習室の入館者数はコロナ禍の只中にあった令和 2 年度から微増傾向といったところで、十分な回復には至っていない。本日は令和 5 年度の事業報告、令和 6 年度の事業計画について、後ほど詳細な説明を申し上げます。ナセ BA は、アタゴオルや情報サービス提供の充実、図書館資料を活かした講座や展示事業、地域や学校との連携、市民ギャラリーにおける多種多様な展示や発表、サポーターの皆様など市民と

の協働推進など色々な顔を持っている。それらをご覧いただきながら委員の皆様それぞれの見識において様々な入口からご意見を頂戴したい。

## 6. 委嘱状交付

## 7. 委員自己紹介

## 8. 職員紹介

## 9. 会長および副会長選出

会長は我妻仁氏、副会長に西山まなみ氏が選出された。

## 10. 協議

### (1) 令和5年度の事業報告及び事業評価について

事務局から資料に基づき説明。【資料 1】【資料 2】【資料 3】【資料 4】

#### (委員)

コロナ禍から回復の兆しが見えているようで良かった。一方で、年齢層や男女差などの課題に対する取り組み方の工夫が求められている。

ギャラリーの利用者層が固定化されているように思う。企画等の工夫による新たな層の発掘、より市民に拡げるための施策が課題と感じる。

米沢市ゆかりの作家の作品展示などが常に行われていることで効果が上がっているのではないかと。鉄砲の展示をご覧になった県外の方から、素晴らしかったという声を聞いた。常に様々な企画、展示を行ってほしい。

#### (委員)

ARTS MEET OKITAMA に継続して参加している。とても素晴らしい取り組みに感謝を申し上げる。きめ細かく内容にこだわり、出品者の意欲を高める募集要項、充実した目録、アンケートを取り、展示も見やすくなっている。キャプションも丁寧に作っている。たよりも発行されていて、アンケートの集約や今後に向けた動きなど親切にまとまっている。さらには、アーカイブとして過去の出品作品がネット上にあがっているので、作品を改めて見直すことができ、出品者としてありがたく思っている。今後も続けてほしい。

#### (委員)

多種多様な事業をしていることが報告書から見て取れた。貸出の少ない中高生は、おそらく本は借りないが学習室で勉強するために来館しているというケースも多いのではないかと。

この年代の興味をひく DVD を準備するなど工夫してはどうか。

近年では製造業や福祉関係の企業に外国人労働者が勤めている。米沢市でもインバウンド政策に取り組んでいるようだが、図書館ではそういった方はどれくらい来館するのか。ぜひそういった方にもナセ BA を利用してもらいたい。

(事務局)

外国の方の利用者登録はある。本人が来館したり日本語話者と一緒に来館している。新規登録申請書の記入方法を英語で説明する紙や、利用案内の英語版も用意して対応している。

(委員)

子どもと一緒にオープンギャラリーの展示を鑑賞した。子どもが興味を持って見ており、とても良い機会になった。ギャラリー展示にも立ち寄ることはあるが、子どもを連れて入りづらい時もある。オープンギャラリーはそういったことが無くありがたい。

貸出の少ない中高生に、学習室のフリーWiFi の利用を促してはどうか。学習室利用の休憩に、図書館に行って漫画を読みに行こうかな等思ってもらえたら良いのでは。

(委員)

周りの友人にナセ BA に行っているか聞いてみた。10 人位のうち、毎週行く人は 2 人で、雑誌を読んだり料理の本をよく借りているとのことだった。他の 8 人は行ったことが無いという人がほとんどだった。時間が無い、子どもと行くが自分は借りたことが無いということだった。ウッディコンサート等のチラシをコミセンにも置いているが、コミセンに来る人は固定化しており、知らない人が多い。そういった人や、貸出の少ない中高生に向けても、新刊などの情報を LINE 等の身近な SNS で周知すると見てもらえるのではないかな。図書館を利用している人に聞くと、仕事帰りに寄れるようにもう少し遅い時間まで開館してくれると嬉しいという声を聞いた。月 1・2 回程度、ナイター営業のような取り組みがあると良いと思う。来館したことがない人には、ツアー等で図書館を知ってもらうきっかけが作れるのではないかな。

(事務局)

周知は課題と感じており、今年度力を入れている。図書館の LINE はないが、米沢市の LINE を活用していく。Instagram を開設したばかりなので、より活用していきたい。遅い時間の利用については相談していく。

(委員)

貸出人数の状況を見ると男女差があるようだが、住民のニーズを把握する必要もあると思う。海外の事例では、ボードゲームやテレビゲームをやるなど、ゾーニングしながら賑わいを生んでいる。一つのヒントになるのではないかな。学習室を見ていると男女差は大きく感じないので、書架へ誘導するよう動線を工夫することで少しでも図書を手に取ってもらう機会が増

えたらと思う。来館者、貸出数は少しずつ回復しているようで良かった。

レファレンス統計は、調査に時間を要するものについての件数を挙げていると捉えて良いか。経年的には増えているのか、減っているのか。

(事務局)

一般レファレンスについては、所蔵調査等のクイックレファレンスは統計から除外している。一昨年に比べるとさほど大きな変動はない。郷土レファレンスについては、減少傾向で推移している。お尋ねの多い内容としては、ご先祖調べなど。調査に1週間前後いただき回答している。

(委員)

レファレンスサービスもあるということを知ってもらうために、図書館職員に気軽に話しかけてもらえる雰囲気づくりを継続してほしい。SNS や Web に広がるあやふやな情報も、来館すれば確実な情報を確認できるという実感を得ることができればと思う。

(委員)

総合的な文化施設として、図書館の貸出だけではなくギャラリーやコンサート等あらゆる努力が実を結んで多くの来館者数に繋がっていると思う。

カフェがあれば良いと思うが、カフェスペースを作ってもらったおかげで外で飲み物を買ってきて飲むことができるようになった。どんな形であれ、図書館に足を運ぶことが大事。色々な本に出会って、ネットだけではなく文字を読むことの楽しさを味わってもらえたら良い。実際に読み聞かせを通して、絵本が人の心を動かす力あることを実感した経験がある。

長井市の「くるんと」は、図書館、防音された遊び場、喫茶店、子育て支援センターがワンフロアに複合されている多機能施設で素晴らしいと思った。米沢図書館でも「くても」への出張おはなしかいの取組が素晴らしいと思った。子どもは身体を動かした後は集中力がつくので、より物語を楽しむことができたのではないかなと思う。

(委員)

ブックスタートから始まり、巡回文庫、見学の受け入れ、探究型学習の支援など子どもたちの読書に対する意欲の喚起、調べ学習への指導に感謝申し上げる。そのような取組が功を奏して児童の利用者増に繋がっていると思う。

中高生でも特に男子、また、20～40 代男性にどうやって足を運んでもらうか、検討が必要だと思う。カフェの導入も良いと思う。山形市の遊学館もリニューアルし、カフェで地元の食材を使った食事を提供している。カフェを目的に来た人が、図書館にも立ち寄ることがあるらしい。20～40 代男性に対しては、職場や市役所などに新刊やその年代に合った本を集めた巡回文庫のようなものを設置し、昼休みを利用して借りてもらうことはできないか。

(2)令和6年度事業計画案について

事務局から資料に基づき説明。【資料 5】【資料 6】【資料 7】【資料 8】【資料 9】

(3)これからのナセ BA に期待すること

(委員)

古文書や上杉関係の資料は大きな強みだと感じた。世界的に見ても貴重な資料があることや、研究者に特化した PR を行っていくと良いのではないかな。

読書通帳もおもしろい。通帳がたまった時点でご褒美があると良いのではないかな。地元店や企業との提携でサービスが受けられるなど、ウィンウィンの関係が築ければ良いと思った。

図書館で借りた本と同じ本を、自分の手元に置いておきたいと思うことがある。地元書店と提携して図書館で購入できるとおもしろいのではないかなと思った。

(委員)

今まで通り色々なことを大事にしながら、総合的な文化施設として新しいことを取り入れながら事業を進めてほしい。催しを知らない方がほとんどだと思う。情報を発信して、老若男女が気軽に足を運べる施設であってほしい。

(委員)

限られた人員の中で事業を行うのは大変だと思う。広報、地域の方との連携を通じて、今のサービスを補完しつつより充実を図ってほしい。SNS の活用やよみかせなど、学生ボランティアの積極的な参加を促していくことで PR や利用者の普及につながると思う。

(委員)

引き続き、市民の人が利用しやすい図書館運営を継続してほしい。SNS を使って中高生含め広い年齢層に伝わるように周知を行ってほしい。スマホを使ってスタンプを集めて特典が貰える等の取組があると中高生も利用しやすいのではないかな。

(委員)

X(旧 Twitter)や Instagram の発信を積み重ねていけば、行ってみようかなと思う人が増えると思う。子どもを連れて行く場所としてナセ BA が思い浮かばない。本を借りる以外の過ごし方がイメージできないので、Instagram で過ごし方の参考になるような情報があれば良いと思う。

アタゴオルは巡回時に音は出せないのか。移動図書館の存在を知らない方も多いと思うので、より知ってもらえるといいと思う。

(委員)

ギャラリーの入り口で受付をしている時に、通り過ぎて行かれると寂しい。色々な作品に触れることができる機会になると思うと勿体ない。ギャラリーのアンケートで、「図書館に来て展覧会を知り立ち寄ったが、とても良かった。米沢で創作活動をしている人がこんなにもいることを知らなかった。」というような回答が少しずつ増えてきたが、まだまだ少ない。図書館とギャラリーの活動を連携する機会があれば良い。博物館と児童館が連携してスタンプラリーを行っているが、ナセ BA と博物館との連携があっても良いと思う。

(委員)

ギャラリーと図書館の連携を強化して利用率を高めてほしい。充実した予算の中で余裕のある運営をできるよう、行政へのアピールを頑張っていかなければいけないと思う。デジタル情報に強い若い男性に向けて、検索機能や広域利用の充実にお金をかけていければ良いと思う。ターゲット層を刺激するような施策を考えていかなければいけない。

(4)その他

(事務局より)

委員へ高森務展外部評価のお願い。

## 11. 閉会

(館長より)

本日は貴重なご意見を頂戴し感謝申し上げます。また、多くの課題をいただいた。

令和 4 年度の秋に来館者が 200 万人に到達した。300 万人も遠くない未来に到達するのではないかと考えている。

一番大きい課題は周知の部分、特に周知の仕方や対象を分析して進めていく必要があると思う。学校、商店街、商工会議所、書店等との連携、伝国の杜やナセ BA 内の連携強化もまた大きな課題だと感じている。特典という発想はなかったので、考えていきたい。

カフェのご要望は多くいただいているが、カフェスペースに自動販売機を設置する方向で動いている。

アタゴオルは場所によって巡回時に音楽を鳴らしている。幟を製作する話も挙がっている。市役所も昨年度から巡回しているが、まだ利用は増えていない。長い目で見て利用を拡大したい。

すでに実施していることを周知することから始めたい。来館されている方にはより多く来館していただけるように、来館が困難な方にはどんな方法があるか、まだ来館されたことが無い方にはどんなきっかけを作るか、分析しながら、本日いただいたご意見を基に知恵を出し合って居心地の良い愛されるナセ BA になるよう一層努めていきたい。引き続きご指導ご支援をお願いしたい。